



KIZUNA

— 京都第一赤だより —

春号

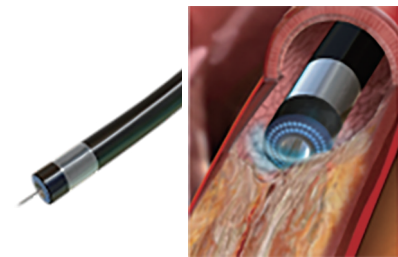
vol.99

2026.4

レーザーで“きれいにする”のは お肌だけじゃない？

～ エキシマレーザーを導入しました～

医療用レーザーは様々な分野で使用されており、美容分野におけるシミやほくろの除去は、一般の方にもよく知られています。そんなレーザーですが、循環器内科の治療にも用いられていることをご存じでしょうか。このたび当院では、心血管領域におけるレーザー治療システムを新たに導入しました。



エキシマレーザーカテーテル

この治療はエキシマレーザー（紫外線領域のレーザー）を用いて、組織の分子結合を切り離すことでプラークや血栓を蒸散させ、血管を再開通させる治療機器になります（ELCA: Excimer Laser Coronary Angioplasty と呼ばれており、エルカと読みます）。通常のカテーテル治療で対処が難しい病変に有効と報告されており、かつ熱による損傷を起こさないため安全性の高い治療とされています。

ELCA を用いた治療の対象としては急性冠症候群（心筋梗塞）、ステント内再狭窄、冠動脈バイパス術後の静脈グラフト閉塞などが挙げられます。また冠動脈以外でも、癒着で抜去困難なペースメーカーリードの抜去や下肢動脈ステント内閉塞などの用途が保険承認を得ています。従来の治療に加えて ELCA が加わることで、より多様な病態に対応できる治療選択肢の拡充が期待されます。



京都第一赤十字病院循環器内科では、これまでも急性期治療や重症症例に幅広く対応できる体制づくりとして、人員の育成や医療環境の整備を進めてまいりました。昨年 12 月には心臓専用アンギオ装置の更新も行い、より迅速で安全な治療が可能となっています。今後も地域の皆さまに安心して医療を受けていただけるよう努めてまいりますので、いつでもお気軽にご相談ください。

かとう たく
循環器内科 副部長 加藤 拓



就任のご挨拶

副院長 岡本 和真 おかもと かずま

ギアチェンジして頑張ります

府立医大での13年間の医局長業務で“燃え尽き症候群?”になって医大を退職、その後2年間は消化器外科医として気楽に勤務してきました。本院に赴任して2年、優しくて勤勉な職員らと接し、さらにDMAT 隊員や救護班員の活動ぶりを見てみると、赤十字の一員としてこの病院と職員のために再び滅私奉公の精神で副院長の重責を担う覚悟が芽生えてきました。とはいえ、いまだに院内で“プチ迷子”になったり、電子カルテに悪戦苦闘したりの日々ですので、皆様からの温かい助言、援助をよろしくお願ひします。



最近ハマっていること

小兵の幕内力士「藤ノ川」、大きな相手に気合とスピードで真っ向勝負する姿は天晴れ!大阪場所も応援に行きます!

副院長 佐藤 秀樹 さとう ひでき

地域に信頼される病院をめざして

この度、4月より副院長を拝命いたしました消化器内科の佐藤秀樹と申します。2008年10月に当院へ着任し、当院では18年目を迎えました。これまで臨床の現場で培ってきた経験を基盤に、今後は病院運営の立場から当院の発展に尽力してまいります。医療を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、京都第一赤十字病院が地域の皆様にとって安心と信頼の拠り所であり続けられるよう、大辻院長のもと鋭意努力してまいります。どうか今後ともご支援を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。



最近ハマっていること

昔から動物が好きで猫、犬、小鳥を飼っていました。今は猫を飼っていて日々癒されています。

看護部長 田中 由美子 たなか ゆみこ

救急から在宅まで、真心の連携を

この度、京都第一赤十字病院の看護部長に就任いたしました。私自身、3年前に救急搬送され、本院の迅速で適切な急性期医療と、不安に寄り添う看護を身をもって体感致しました。診療報酬改定では、これまで以上に病院間の機能分化とシームレスな連携が求められています。急性期治療を終えた患者様の思いを届け、住み慣れた地域へ安心して戻れるよう、入退院支援の充実と多職種連携を強化してまいります。地域の皆様から信頼されるよう、顔の見える、温かな病診・病病連携を目指してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどお願ひ申し上げます。



座右の銘

「雲外蒼天」しんどくても、努力していればいつかきっと青空が望める、というポジティブな意味。好きな言葉はバランス。好きな色は緑。

呼吸器内科 部長 徳田 深作 とくだ しんさく

戻ってまいりました

この度、呼吸器内科に着任いたしました徳田深作と申します。2008～2010年に専攻医として当院で勤務させていただいており、16年ぶりに戻ってまいりました。5年間在籍した府立医大では肺癌の研究を続けながら呼吸器疾患全般の診療を行っていましたが、京都大学の間質性肺炎グループで肺移植などを勉強させていただいた経験から、びまん性肺疾患にも興味を持っております。胸部CTのよく分からない画像で悩まれた際にはお気軽にご相談ください。若輩者にも関わらず部長を拝命し務まるか不安を感じておりますが、温かい目で見えていただければ幸いです。ご指導・ご支援の程よろしくお願ひ致します。



最近ハマっていること

リップスティック
子供のようによく乗れませ
ん...

呼吸器内科 副部長 今林 達哉 いまばやし たつや

京都で気管支鏡といえば『第一日赤』を目指して

このたび副部長を拝命いたしました。呼吸器内視鏡を専門に、Angio-CTガイド下気管支鏡やAI補助下術中診断などの新しい技術を取り入れ、より正確で身体への負担が少ない診療を目指しています。チームで力を合わせ、京都で気管支鏡といえば第一日赤と言っていただける体制づくりに取り組んでまいります。



最近ハマっていること

二郎系ラーメン巡り。
月6回通っています。

消化器内科 部長 戸祭 直也 とまつり なおや

当院20年目の新たな挑戦

1995年京都府立医科大学を卒業、2006年より当院に赴任し、医長8年、副部長12年を経て、部長を拝命することになりました。主として上部消化管内視鏡診療を専門とし、これまで、当直明け帰宅体制の整備、咽頭ESDやLECS、食道癌の光線力学療法(PDT)、再建腸管ERCPの導入、キッズセミナーの企画などを手掛けて参りました。今後は、奥山部長と2人部長体制で消化器内科、消化器センターを統率し、さらに新しい挑戦をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。



最近ハマっていること

50年来の虎ファンです。去年は運良くセ・リーグ優勝の瞬間を甲子園スタンドで味わえました。

消化器内科 副部長 西村 健 にしむら たけし

「沈黙の臓器」肝臓 最後に悲鳴を上げる前に!

私が肝臓を専門にしてもう20年たちました。肝臓は痛みの神経もなく、なかなか症状がでないため「沈黙の臓器」と言われます。沈黙しているうちに、気が付かず病状が進行し、腹水や黄疸などの症状が出てきた、エコーでたまたま肝臓が見つかったなどで受診される例がまだまだあります。肝臓学会の「奈良宣言2023」はALT30超えで医療機関を受診!と肝臓病の早めの発見を目指しています。「肝臓が悲鳴を上げる前に治療を!」を心がけています。



最近ハマっていること

折り畳み自転車。雨でも雪でも自転車通勤。自転車が医局の机の横あれば、まだ病院にいます。

消化器外科 部長 栗生 宜明 くりう よしあき

良質な大腸癌外科治療をめざして

2026年4月より消化器外科部長を拝命いたしました栗生宜明と申します。手術をお受けいただいた患者様やそのご家族、紹介いただきました先生方にご満足いただけるような安全で質の高い手術を引き続き提供してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



私の強み・専門分野

大腸癌を中心とした下部消化管外科、内視鏡外科、ロボット外科

消化器外科(胆管膵領域) 部長 生駒 久視 いこま ひさし

見える化でつなぐ肝胆膵医療

このたび消化器外科部長を拝命いたしました。肝胆膵領域の高難度手術・低侵襲手術と周術期管理の経験を生かし、安全で質の高い医療を病院全体で推進します。術前計画はCT・MRIからの3D画像や動画、AI等で「見える化」し、紹介元の先生方とも共有しながら診療を進めたいと思います。病理部との標本レビューも毎月行い、治療効果の検証と改善に努めています。診療連携や術前計画の共有、症例のご相談など、お気軽にお問い合わせください。



最近の関心事

2027年8月 鏡視下手術の研究会「第14回 Reduced Port Surgery Forum」(京都)を主催

整形外科 部長 奥村 弥 おくむら ひさし

感謝を胸に、京都の整形外傷再建の未来へ

2010年より京都第一赤十字病院整形外科に勤務し、多くの先生方に支えられながら、重症・難治症例と向き合ってきました。患者さんが元気に退院され、外来で笑顔を交わせる瞬間が医師としての原動力です。これまでの感謝と敬意を胸に、適切な整形外傷治療を遂行できるチームを目指して、外傷再建センターを立ち上げて一歩ずつ育っていくと考えています。今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



最近ハマっていること

ワインに合う前菜やマッシュルームのクリームパスタ、白麻婆豆腐や創作料理に挑戦しています。

整形外科 副部長 橋本 秀介 はしもと しゅうすけ

脊椎 × スポーツ医療で地域に貢献

整形外科副部長の橋本秀介です。脊椎外科を専門とし、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、PHICISLevel2を取得。ラグビートップリーグや国際試合での経験を診療に生かしています。当院では外傷性脊髄損傷への再生医療「ステミラック」も開始しました。専門性とチーム医療を大切にし、地域の皆さまに寄り添い、スポーツ外傷から慢性疾患まで安心して相談いただける医療を提供します。



専門・得意分野

脊椎専門/スポーツドクター/ステミラック

眼科 部長 梶原 小有里 かじわら さゆり

若輩者でございますが頑張りますのでよろしくお願いいたします

この度 眼科部長を拝命いたしました梶原小有里と申します。

大阪で生まれ、中学・高校・大学は新潟で過ごしました。1999年に京都府立医大眼科学教室に入局し、2001年からの約25年間当院で勤務させて頂いております。

特に専門といえるようなものはございませんが、分かり易い説明を心がけ、安心安全な医療が提供できるよう努力させて頂く所存です。これからもどうかよろしくお願いいたします。

座右の銘

誠心誠意

小児科 副部長 富井 敏宏 とみい としひろ

身近に質の高い小児医療を

この度、小児科副部長を拝命致しました富井敏宏と申します。

2008年京都府立医科大学卒業後、京都市立病院、静岡県立こども病院での研修、母校の大学院、関連病院勤務を経て、2023年より当院小児科で勤務しております。専門は血友病をはじめとする血液疾患で、アレルギー診療も行っています。生まれ育った身近な地域で、これまでの経験を生かし、質の高い小児医療の提供に努めて参ります。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



趣味

中学からチェロを弾いていて、今もオーケストラで時々弾いています。

総合周産期母子医療センター長 藁谷 深洋子 わたに みよこ

周産期がんばります！

この度、京都第一赤十字病院総合周産期母子医療センター長を拝命しました藁谷深洋子です。

姓・名ともに「読めない」と言われることが多いのですが、一度読み方を知っていただくと、かなりの高確率で名前を覚えていただけます。周産期を専門にし、京都府立医大産婦人科で研鑽を積んで参りました。「周産期」は産科だけでは成り立たない分野で、小児科の先生方はもちろん、多くの科の先生方にお世話になっております。どうぞよろしくお願いいたします。



最近ハマっていること

ホットヨガ

脳神経外科 副部長 谷川 成佑 たにがわ せいすけ

京都の医療を支える一翼として

今年度より京都第一赤十字病院脳神経外科副部長に着任いたしました谷川成佑と申します。伏見で生まれ育ち、桃山高校、京都府立医科大学を卒業後は、京都第二赤十字病院や母校、福知山など京都府下の病院を中心に研鑽して参りました。脳卒中や頭部外傷などの救急医療や脳腫瘍手術に加え、脳血管内治療や神経内視鏡手術など幅広い治療に携わって参りました。迅速な判断と丁寧で質の高い診療を実践し、立澤部長の下、院内外の連携を深めるとともに、チーム一丸となって患者さんご家族に寄り添いながら京都の医療を支える一翼を担って参ります。



最近ハマっていること

天気の良い日は通勤ランで心身を整えています。

Thoracic Surgery

呼吸器外科

着任のご挨拶



しもむら まさのり

呼吸器外科 部長 下村 雅律

2002年京都府立医科大学卒

2018年京都府立医科大学呼吸器外科講師、准教授を経て2026年1月より現職
外科専門医・指導医、呼吸器外科専門医、手術支援ロボット術者・指導医認定、日本内視鏡外科学会 胸腔鏡技術認定医(呼吸器)

地域の先生方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2026年1月より当院に着任しております下村雅律(しもむら まさのり)と申します。私は2002年に京都府立医科大学を卒業し、その後研鑽を経て、2014年からは綾部市立病院呼吸器外科部長として勤務いたしました。2018年に京都府立医科大学呼吸器外科で教員として帰学し、肺癌や縦隔腫瘍のロボット手術や臨床病理学的研究で充実した日々を過ごしました。とくに、縦隔腫瘍に対するロボット支援下剣状突起下アプローチ胸腺摘出術(Robotic Subxiphoid-optical Thymectomy:RST)は京都府立医科大学オリジナルの方法で、本術式の詳細とその手術成績を報告することができました。

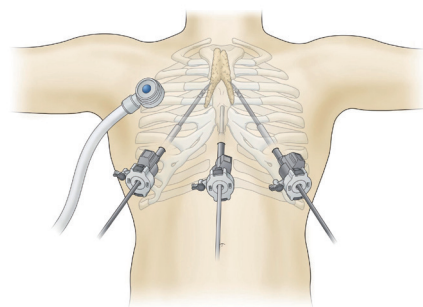
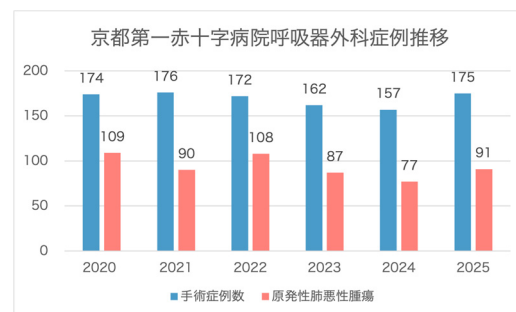
また、肺癌の進展様式のひとつである Spread through air spaces (STAS) の存在と予後との関連を示した報告を行い、それに関する大学院生の指導も行っていました。一方、医局長として医局員の待遇改善や働き方改革についても注力し、より良い教室の発展に努めてまいりました。このたび、ご縁があり京都第一赤十字病院呼吸器外科部長として着任いたしました。今までに培った知識や技術を生かし、肺癌をはじめとした呼吸器外科疾患に速やかに対応し、患者さんやご家族、ご紹介頂きました先生方に安全、安心の医療をお届けできるように努力してまいりますので、今後とも一層のご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

京都第一赤呼吸器外科の紹介

当院の呼吸器外科は肺癌、縦隔腫瘍などの腫瘍性疾患をはじめ、若年者の自然気胸、肺炎腫や間質性肺炎を基礎疾患とした続発性気胸や胸膜炎・膿胸といった疾患に幅広く対応しております。また他疾患の経過観察中に胸部CTで偶然発見されるような小型の肺癌のご紹介も増えております。手術は主に完全鏡視下手術を取り入れ、肺癌や縦隔腫瘍に対してはDa Vinci Xiを用いたロボット支援手術を行っております。縦隔腫瘍については上述のロボット手術を用いており、8mm×3のポート及び右胸部3cmの創部で行っております。胸骨正中切開を行わないために術後疼痛も少なく、比較的早い社会復帰が可能です。

最近では肺炎に伴った膿胸や続発性気胸といった高齢の患者さんも多くご紹介頂いており、ADL低下や呼吸状態の悪化をきたさないように適切なタイミングで手術をおこなうように努めております。

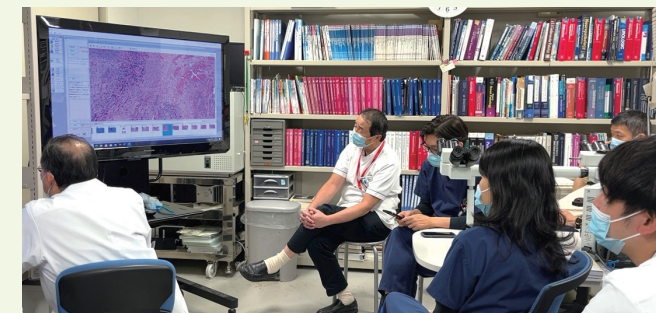
当科のInstagram



ロボット剣状突起下アプローチ 胸腺摘出術

呼吸器診療チームの円滑な連携

当院の呼吸器内科は、胸部悪性腫瘍の専門医、感染症専門医、間質性肺炎の専門医、また診断に重要である気管支鏡専門医が専属しております。また呼吸器外科、内科、放射線科、病理診断科との連携は極めてスムーズであり、早期・進行肺癌や難治性気胸、膿胸など様々な呼吸器疾患に対する最適でシームレスな治療を選択することが出来ます。そのため、内科、外科どちらにご紹介頂いても専門的な治療を提供できることが当院の強みです。



術後病理カンファレンス風景

地域の先生方におかれましては、胸部CTでの異常陰影や、気胸、膿胸などでお困りの症例がございましたらぜひご紹介頂けますと幸いです。

緊急を要する症例については当院地域連携室(075-533-1280)にご連絡頂ければ可及的速やかに対応いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

また、患者さんのWeb予約システム(SAKU 洛連携)は地域の医療機関様で直接ご予約頂けますので、ぜひご活用ください。

SAKU 洛連携



京都第一赤十字病院 呼吸器外科



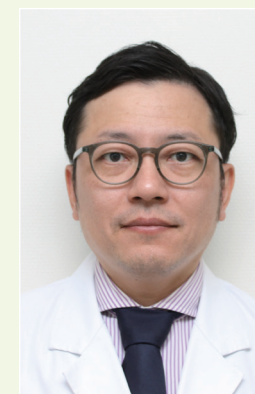
Member



うへしま やすお

副院長 上島 康生

昭和61年卒
日本外科学会外科専門医 指導医
日本胸部外科学会 指導医
呼吸器外科専門医
がん治療認定医
手術支援ロボットダビンチ術者・指導医認定
胸腔鏡安全技術認定取得
日本呼吸器外科学会 評議員
京都府立医科大学臨床教授



しもむら まさのり

部長 下村 雅律

平成14年卒
日本外科学会外科専門医・指導医
呼吸器外科学会専門医
がん治療認定医
手術支援ロボットダビンチ術者・指導医認定
胸腔鏡安全技術認定取得
日本内視鏡外科学会認定 技術認定医(呼吸器)
日本呼吸器外科学会 評議員
京都府立医科大学臨床教授



いしはら しゅんた

副部長 石原 駿太

平成21年卒
日本外科学会外科専門医
呼吸器外科学会専門医
がん治療認定医
手術支援ロボットダビンチ術者認定
胸腔鏡安全技術認定医
京都府立医科大学客員講師



ほんだ かずき

医員 本田 和暉

平成31年卒
日本外科学会外科専門医